



1. 期末考査終了！そして訂正へ

県総体を終え、部活動を引退した3年生のみなさん、これまで本当にお疲れ様でした。これからは後輩たちが部活動をしっかりと引っ張ってってくれるはずです。



1・2年生は先輩がいた頃に負けないような、活気ある部活動を作り上げていきましょう。

さて、1学期のテスト納めとしての期末試験が終わりました。4日間、ひとつひとつのテストに向けて、全力で取り組みましたか？

ほっと一息つきたいところですが、期末試験の翌日には、普通科では進研記述模試があります。これまで学んだ内容が頭に入っているかという腕試しとして、言わば「勉強の全国大会」が開催されます。今の自分が「全国何位」なのか。

…模試の結果が返ってくるのはだいたいひと月後になりますが、良かれ悪しかれ、結果を

科目	得点/満点	偏差値	順位(位/人中)	平均点
国語	261/300	85.7	78/482,060	104.9
数学	161/200	81.7	322/483,483	73.3
英語	188/200	85.3	126/482,289	66.4
物理	73/100	77.7	810/483,864	36.4
化学	100/100	84.7	1/482,545	81.7
生物	88/100	79.5	1,512/483,818	36.7

「ひとつの物差し」として前向きにとらえ、今後も見えないライバルたちとのしぎを削っていきましょう。

1. やりっぱなしは禁物！

模試の結果が返ってくると、たいていの人は志望校の合格の可能性、つまり、「偏差値」や「判定」だけに一喜一憂しておしまいになりがちです。

「やった！A判定だ！」

「うわ！E判定だった…もうダメだ。」



結果の返却の際、こんな声が教室からぼそぼそ聞こえてきますが、これではせっかく出場した全国大会なのに、得るものが少ない。模試の結果というのは、あくまでも途中経過のものさしでしかありません。それよりもむしろ、「他の人には解けたのに、自分には解けなかった問題がある」という事実を重く受け止めて、必ず訂正をしましょう。

2. どんな訂正ノートを作るべきか。

普通科の生徒の模試訂正に限らず、A科、E科の皆さんからも定期考査の訂正の際、しばしば「どう訂正していいかわからない」という質問を受けます。

そもそも、訂正というのは「再び同じような問題を見かけた際には、今度こそ確実にやっつけてやる」ための取り組みです。模範解答をきれいにノートに写しても、その結果得られるものは自己満足だけでしょう。

人間は一度覚えても必ず忘れます。ですから1週間後、1か月後にもう一度そのノートを見たとき、心の中で「ああ、この系統の問題はこうやって解けば良かったんだ。」というように、答えそのものではなく「道のり」を思い起こせるやり直しこそ真の訂正です。

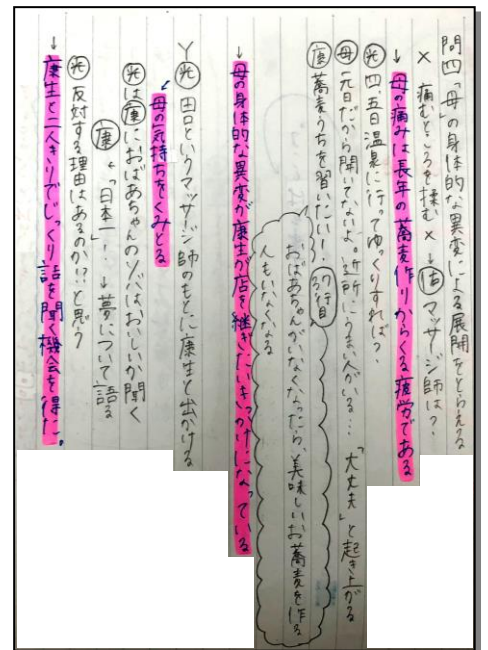
そこで、皆さんに取り組んで欲しいのは、

「解答までのプロセス(=過程)」が分かるテスト訂正

です。国語の模試訂正を例に、実際のやり方を見ましょう。

右のノートはある生徒の小説問題の訂正ノートです。

この小説を読んでいない人でも、このノートを見れば「母が具合を悪くしたことで、光生と康生が話し合うことになった」というプロセスが見えてきます。



…ちなみに、裏面に実際の問題があります。どれが正解かな？

(答えが知りたい人は、3-1の生徒を捕まえて聞いてみてくださいね。)

今回は国語を用いた紹介でしたが、他教科でも変わらず、テスト訂正は何にも増した勉強法です。

頭の良さは初めから決まっているものではなく、「良くする」もの。

筋トレと同じでとても時間がかかります。たった1問理解するために、3日も使うことだってあります。

ですが、それが解けたら面白い。「自分史上最高知能」を目指して、能トレに励みましょう。

問4 波線部X「右の腰から右の背にかけての筋がつったという。Y「やぐら炬燵の台の上を片づけ始めた母の背がまたつた。」とあるが、それぞれについて説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

17

。

① Xは、「母」の老いを家族に思い知らせるできごとであり、「母」をいたわろうという暗黙の了解が生まれて、康生が福寿亭の跡を継ごうと言い出すきっかけとなった。Yは、Xで生じた暗黙の了解を光生が実行にうつすきっかけとなり、加えて康生の本当の気持ちをやつくりと聞き出して、親子の絆を強固にすることにつながった。

② Xは、蕎麦打ちを長年続けてきた「母」の身体的な衰えを端的に表すできごとであり、康生が蕎麦打ちを習って福寿亭の跡を継ぎたいという決意を告げるきっかけとなった。Yは、腕のいいマッサージ師のことを口にした「母」の気持ちをくみ取る光生の行動を引き出し、光生が康生と気兼ねなく語る機会をもたらしした。

③ Xは、「母」の身体の異変を感じさせるできごとであり、「母」自身にも不安を与え、康生の申し出を一蹴することもできず、かといって喜んで受けることもできないという苦境に「母」を追い込むきっかけとなった。Yは、光生に重苦しい雰囲気から逃げ出す口実を与え、「母」の立場について康生と話し合う機会をもたらしした。

④ Xは、自分の健康を顧みることなく仕事に励む「母」の無謀さを示すできごとであり、さらに家族の忠告にも耳を貸さないかたくなさをも光生に感じさせることとなった。Yは、「母」の強気を覆し不安な気持ちにさせるできごとであり、光生と康生が、それぞれの立場から「母」の不安を取り除く努力を始めるきっかけとなった。

⑤ Xは、長年蕎麦打ちを続けてきた「母」の蓄積した疲労を「母」自身にも家族にも再確認させるできごとであり、光生と佐子の「母」に対する思いの深さを露呈することとなった。Yは、「母」の老いを光生に実感させるできごとであり、康生が福寿亭の跡を継ぐことについて前向きに話し合うきっかけとなった。